

東日本大震災に関する東北支部学術合同調査委員会による第3次報告会で講演しました (2011/9/2)

9月2日(土)、ウェスティンホテル仙台2階(仙台市)にて、「東日本大震災に関する東北支部学術合同調査委員会第3次報告会」が開催されました。東日本大震災に関する東北支部学術合同調査委員会とは、土木学会東北支部、地盤工学会東北支部、日本地すべり学会東北支部、東北建設協会、日本コンクリート工学会東北支部、日本建築学会東北支部、日本都市計画学会東北支部準備委員会といった、東北支部をもつ7機関の合同調査委員会であり、今回の震災を契機に発足したものです(委員長:当センターの真野教授)。同報告会は、今回で3回目を迎え、「土地利用と町づくり」、「津波に対する多重防護」、「ガレキ処理」の3つのテーマについての報告が行われました。当日は、第1セッション(多重防御の問題について)で、当センターの今村教授から多重防御の考え方について、越村准教授から復興計画策定における津波数値シミュレーションの活用方策について、真野教授から津波避難をさまたげる要因についての講演が行われました。

報告題目(多重防御の問題について)

今村文彦:「多重防御の考えー復興に向けてー」

越村俊一:「復興計画策定における津波数値シミュレーションの活用」

真野明:「避難を妨げたもの」



会場の様子(1)



会場の様子(2)

写真提供:東日本大震災に関する東北支部学術合同調査委員会